

# The Professional

file.03

奈良県吉野川の岩盤緑化プロジェクトへの参加がきっかけでプロフェッショナルの道を歩み始めた18歳の女性がいる。「けんせつ小町」の先輩、小西恵子さんが彼女の勤める会社を訪ねた。

※けんせつ小町：建設業の現場で働く女性の愛称。



工事現場では新しい発見があります。



梅若 夢夏さん

京都府立北桑田高校 森林リサーチ科卒業。2016年4月、(株)高崎組入社。研修を経て、11月から災害復旧工事を担当予定。

今やりたいのは、**岩盤緑化をもっと普及させること**

奈良県吉野川は水と緑が調和した景観が魅力である。しかし、河川改修工事を行ったところ、斜面に岩盤が露出し、植物が全滅。自生していた希少種「ユキヤナギ」を復活させるため、岩盤の緑化を行う必要があった。

岩盤緑化に関しては、京都府立北桑田高校森林リサーチ科がすでに碎石場岩盤で試験移植を行っており、岩盤に植物を移植する「削岩孔植樹法」で特許も取得。この高校の協力を得て、吉野川岩盤緑化プロジェクトがスタートした。当時3年生の梅若さんも参加していた。

「建設会社の技術者に女性がいて、しかも社長だったのでびっくり。女性が働きやすい職場づくりを力を入れていると聞いて興味がわき、会社見学へ行きました。現場で働く技術者がカッコよくて憧れました」と梅若さん。

女性への配慮や職場の雰囲気の良い、岩盤緑化に関わることも決め手となり、(株)高崎組に入社することに。現在は研修を受けながら、岩盤緑化の記録も担当

現場で働くつてカッコイイ！ 憧れて入社しました。



している。「工事で緑がなくなるのは残念です。自生種ユキヤナギを移植して2年になりますが、台風が増水にも耐えてしっかり育ってくれています。種が落ちて、発芽して成長するという二次発芽を目指しています。建設業界に入ったばかりの私が今やりたいのは、岩盤緑化をもっと普及させていくことです」。

早く経験を積んで、頼られる技術者になりたい

ロングヘアにブルーのネイル。梅若さんが作業着でなければ、建設業とわからないだろう。

高崎社長は梅若さんのためにピンク色のヘルメットや道具箱を用意し、女子トイレや更衣室も新設。男性の職場に初の女性社員ということもあり、できる限りの心配りで迎えた。「受け取るだけではなく、できることを返していきたい。職場の雰囲気がよくなるように挨拶などコミュニケーションを大切にしています」。

女性社員二人で大変なことはないのだろうか？  
「二度も職場でつらいと思ったことはありません。測量現場では、当初数値が合わず苦労しましたが、慣れるとだんだん誤差も小さくなって、出来るようになる手応えがうれしかったですね。工事現場では新しい発



けんせつ小町。左から、梅若さん、小西さん、高崎社長



春に白い花を咲かせるユキヤナギ。活着率は84%から95%に上がり経過良好という。

見があります。11月からの現場が今から楽しみです。将来どんな技術者になりたいかと尋ねると、「現場では予測できないことが起こるので、冷静に判断して対処しなければなりません。先輩たちは頭の回転がものすごく速い。私も経験を積んで、頼られる技術者になりたい。先輩たちが後に続きたくなるように」と力強く答えてくれた。

高崎社長は「一人前になるまで10年はかかります。長く勤められるよう協力は惜しみません」とエールを送った。やりがいのある仕事に、個性と生き方を尊重してくれる職場。10年後の彼女の姿が楽しみです。

## お二人を訪ねて



小西 恵子さん  
1996年、宝塚歌劇団を退団後、和歌山県橋本市の山口建設(株)に入社。

慣れない取材に臆することなく、答えてくれた梅若さん。18歳なのにしっかりと自分の考えと目標を持っていることに感心しました。土木に精通する高崎社長も彼女にとって心強い存在。今回の取材で、女性が働きやすい職場づくりの大切さを改めて感じました。土木は私たちが生活する上で欠かせない仕事です。記事を読んで、女性はもちろん多くの方に興味を持ってもらえたらうれしいですね。